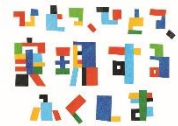


令和7年度県北地区読書支援者育成事業研修会



主催：福島県教育庁県北教育事務所

令和7年7月5日（土）伊達ふれあいセンターにおいて、子ども読書活動推進に向けて活動する方々の専門的な知識や技術の向上を目的として、標記研修会を開催しました。

「第五次福島県子ども読書活動推進計画について」

重点（ふくしまならではの取組）

- ☆乳幼児期から高校生まで、全ての子どもたちに、発達段階や多様性に応じた、校種間も含めた切れ目のない取組を推進する。
- ☆全校一斉の読書活動を推進する。
- ☆学校司書の配置促進（週2回以上の配置）を図る。
- ☆学校、地域、図書館等の好事例を紹介し、伴走支援により各市町村の推進計画の見直しや改訂を進める。
- ☆子どもの視点にたった取組とするため、子どもにわかりやすく推進計画を示し、周知を図る。
- ☆図書館のDX化を推進する。
- ☆震災関連の図書資料の整備・充実を図る。



震災語り部による講話

「未来へつなぐ語り-福島の実験から学ぶ読み聞かせの力」

福島第一原子力発電所から25キロに住む一人として

原発震災を語り継ぐ会 高村 美春 氏

2011年3月11日午後2時46分から語りが始まります。地震、津波、原発の爆発、そして避難。子どもを先に逃がし、仕事へ戻ったこと。そして、3号機の爆発音を聞いて逃げることを決意したこと。そこで何があり何を見たかを語っていただきました。高村さんと家族がどのような体験をしたのか、その経験から得た「問い」を共有し、その「問い」をもち続けることによって、自分事にしてほしいという思いを話していただきました。

<参加者の声>

○震災語り部の方の話は、体験者としての切ない思いの数々、どれ程の心に傷を与えたであろう体験をお聞きし、どう原発や災害に向き合うか、深く考えさせられました。辛い体験を本当にありがとうございました。子や孫にも話したいと思います。



「子どもの心に響く声-読み聞かせの基礎と実践」

福島県立図書館総括司書兼資料情報サービス部長 鈴木 史穂 氏



子どもたちに絵本の世界を伝えることの大切さを話していただきました。また、読み継がれている絵本と子どもたちに支持されている絵本についての紹介と「読み聞かせ」の実演から読み聞かせのポイントを解説していただきました。

ブックリストにある絵本の表紙を見ると、読んでくれた人や、読んでもらったときのことを思い出しませんか？ 子どもに読んであげたことを思い出す人もいます。『絵本は心のへその緒』（松居直 著 NPO ブックスタート）には、“子どもが「本を読んで！」というのは「一緒にいて！」ということです。”と書かれています。絵本を読んでもらった記憶は、読んでくれた声や読んでもらったときのぬくもりとともに、幸せなひとときとして残っていきます。読み聞かせを、子どもと一緒に楽しんでください。

本の選び方

- ① 無理のない大きさであること
- ② 遠くから見てよく見える絵であること
- ③ 絵と文のバランスがよい本であること



本の読み方

- ① 読む準備
 - ・あらかじめ声を出してよく下読みをしておく 開きぐせをつける
- ② 読む前に
 - ・会場の確認 会場づくり 安定した持ち方 どの子にも見えるように
- ③ 表紙から裏表紙まで
 - ・話の背景や顛末を暗示する絵があるものは、丁寧に絵を見せる
 - ・読み終わったら、裏表紙を見せて、表紙にもどる
- ④ 読むときに
 - ・ゆっくり、はっきり、ていねいに 手や腕で画面を隠さないようにめくる
 - ・絵を読む時間も大事



<参加者の声>

- 読み聞かせに向く本を紹介していただき、これからの活動に生かしていきたいと思います。
- 実際に絵本を読み聞かせしてもらったり、自分で声に出したりして、楽しみながら学びました。

